

現代住宅の平面構成に関する研究

第1報 平面類型方法の提議

正会員 川崎 光敏 同 青木 正夫 同 竹下 輝和 同 反清 貴和

同 磯貝 道義 同 宮崎 信行 同 岡 俊江 同 川島 浩孝 同 長嶋 洋子

①はじめに 研究目的

近年、住宅の規模は、増々拡大の方向にあり、一戸建て住宅においては、総室数が5室〜6室という規模の住宅が、一般的となった。この程度の規模の住宅において、今日問題になっているのが、接客空間、特に続き間座敷の存在である。そこで、この多くの問題を内包する続き間座敷について、計画的容観性をもたせ住宅平面計画の段階で、続き間座敷の位置付けを明確化することは、意義のあることである。

そのため、1つのアプローチとして、本研究では、住宅の平面が、家族内住生活空間と、接客空間の2つの要素を中心として構成されるという視点のもと、住宅平面の構成に関して、全国的に適用できる類型方法を提案し、類型の分布状況を把握することを目的とする。

②研究課題

1) 全国的な、住宅平面の分布状況を把握するための類型方法を提案する

2) 今回は、九州をとりあげ、提案された類型方法を採用し、住宅平面分布の特徴、及び、その分布パターンを、把握する。

③住宅平面類型方法の提案

住宅の平面は、接客空間と家族内住生活空間から成り立ち、それぞれが互いに領域区分しながら構成されるという視点のもと、住宅の平面類型を行なった。

ここでは、住まい方が明らかでない図面から室機能を規定するのは困難であるが、それぞれの空間の核として、以下のような室に注目した。

接客空間の構成では、その核としての座敷に注目し、続き間座敷、一ツ間座敷、座敷なしの大きく3つに分類した。応接間、座敷とともにとられることが多いため、別に考察する。

家族内住生活空間の構成では、その核として、だんらん室に注目した。ここでは、台所や、ダイニングキッチンに隣接する部屋が、だんらん空間になりやすいという考え方をもとに、DK接続室をだんらん室と考えた。また、DK独立型やDK2室接続型は、だんらん室の規定が、困難なため、別に考察する。

但し、各室は、以下に示すとおりである。

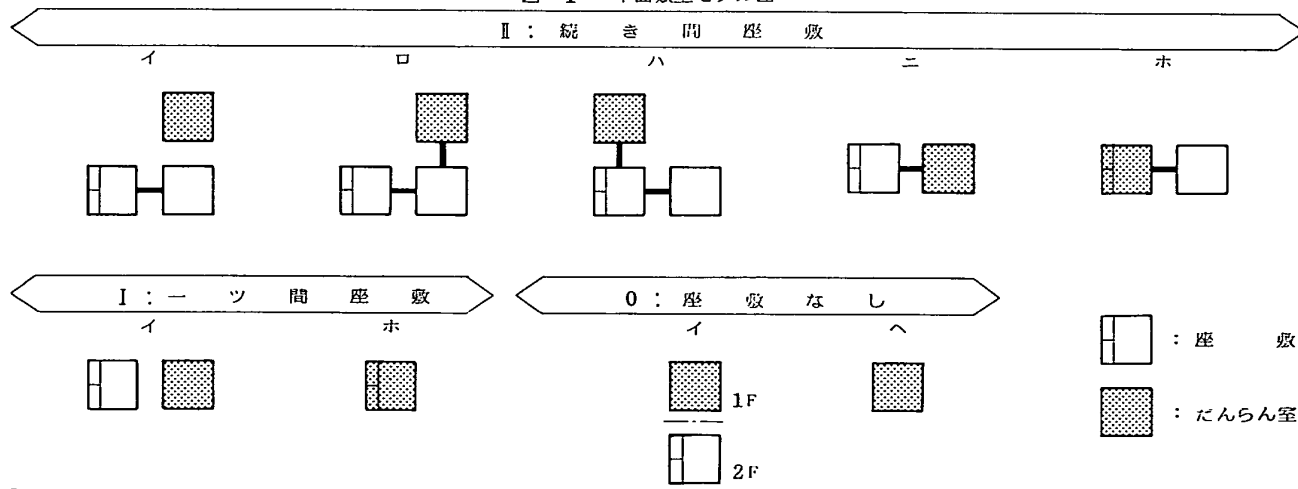
座敷	床の向のついた和室
続き間座敷	座敷と隣接する部屋が、1間以上の開口で連続したものを
応接間	玄関脇の独立した洋室。
DK独立	DKは、他の居室から廊下などを通らないと入れないものを
DK2室接続	DKは半間以上の開口で、2室が隣接するものを

* 接続...2室が半間以上の開口で隣接するもの

* 連続...2室が1間以上の開口で隣接するもの

以上の事項を考慮して、図-1に示す平面類型を提案する。

図-1 平面類型モデル図



4 調査方法並びに概要

当研究室の友人、知人を通じて、新聞の住宅広告の
 間取り図を全国から収集した。対象は、一戸建の新築
 住宅に限り、中古住宅や実際には建設されていないア
 ランだけの広告は除いた。

収集期間は、

第1回 1982年11月中旬～12月中旬の1か月間

第2回 1983年6月初旬～7月末の2か月間

本報で報告する九州地方各県の収集アランタイプ数
 は、次節以降の各図中に示している。なお、アラン数
 は、全く同一の平面の場合、敷地が異なっても、同一
 県内ならば、1アランタイプとして数えている。

5 九州地方の収集アランの概要

(1) 平家と2階建

平家の占める割合は、高い順に沖縄(60%)
 鹿児島25.5%(1%) 熊本24.5%(2%) 宮崎21.8%(1%)
 長崎15.0%(1%) 大分6.4%(1%) 佐賀3.5%(3%)
 福岡2.9%(2%) となっている。

(単価はアランタイプ数)

(2) 面積規模 (図-2 参照)

住戸の平均延べ床面積は、最大の大分県と最小の沖
 縄県とでは、約20㎡の差がある。延べ床面積の大小に
 は、各地の立地条件が関連していると考えられるが、
 面積の小さい平屋の多い県での延べ床面積が小さくな
 っている。

(3) 室数規模 (図-3 参照)

総室数では、福岡、佐賀、熊本、大分の4県は、5
 室が多く、又、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄の4県は、
 4室が多い。後者の4県は、平屋の占める割合が高く
 特に、長崎、鹿児島、沖縄の各県は4室の平家が多い
 ことが関連していると考えられる。

2階建の場合の1階、2階の室数構成は、2室(1階)
 -2室(2階)型、2室-3室型、3室-2室型が大半
 を占める。これらは、次節で述べる平面構成と強い関
 連がある。

(4) LDK構成 (図-4)

Lを和、洋を含めただんらん室として考えるとL-
 DK型の構成が多く、沖縄を除く各県が44.3%(宮崎)
 から58.2%(大分)の割合でL-DKになっている。2
 室構成の場合、少なくともその一方がだんらん室とな
 ると想定すると、L-DK型になるので、これを含め

図-2 県別面積規模

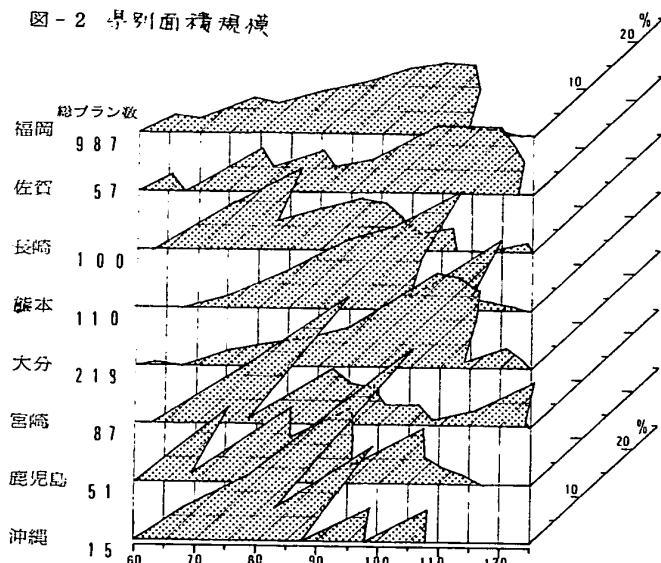
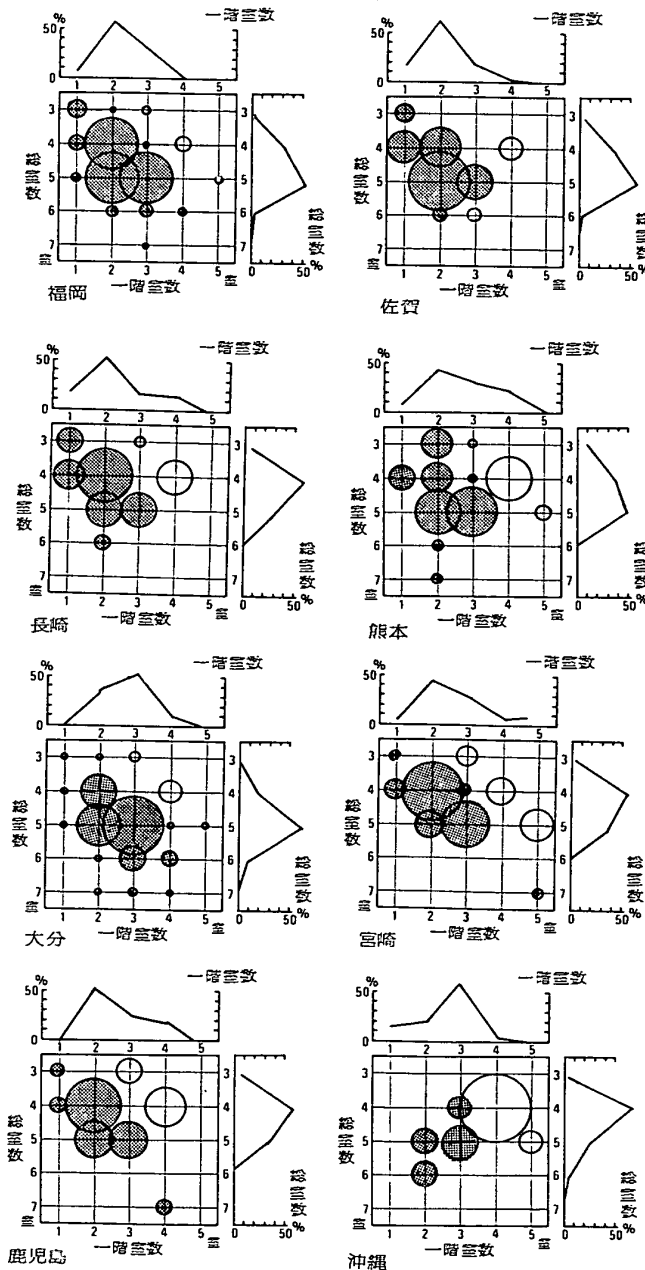


図-3 室数構成



るとL-DK型は、大分、宮崎、鹿児島各県で7割を越す。このようにL-DK型が大勢の中でLDK型が1割から2割、DK独立も1割から2割ある。

対照的な両者について、面積規模との関連も含めて今後、更に考察したい。

(5)座敷のとり方

1階に座敷を設けているか否かを見ると、続き間座敷を設けているのは、鹿児島・宮崎両県の約86%を最高に、最低の佐賀県でも5割を越えている。一ツ間座敷は、佐賀・福岡・長崎の各県で20%以上設けている。九州全体の中では、佐賀県が、やや特異な傾向を示している。座敷を1階に設けず、2階に設けている例は少ない。

(6)応接間のとり方

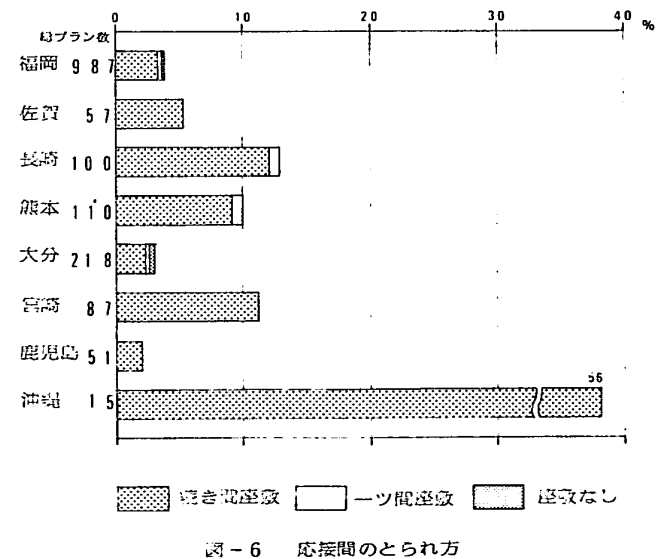
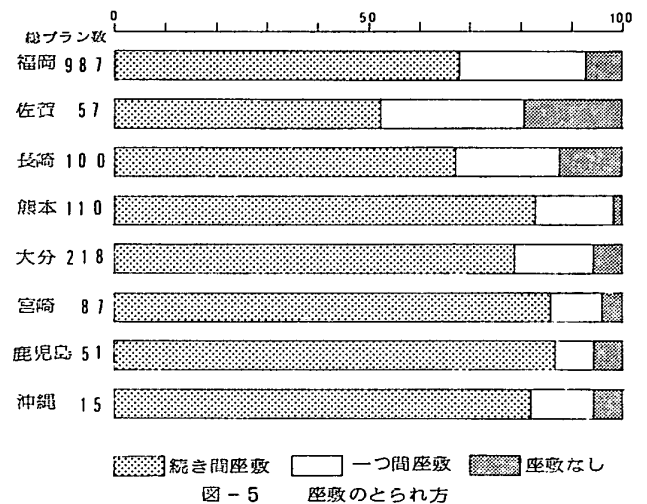
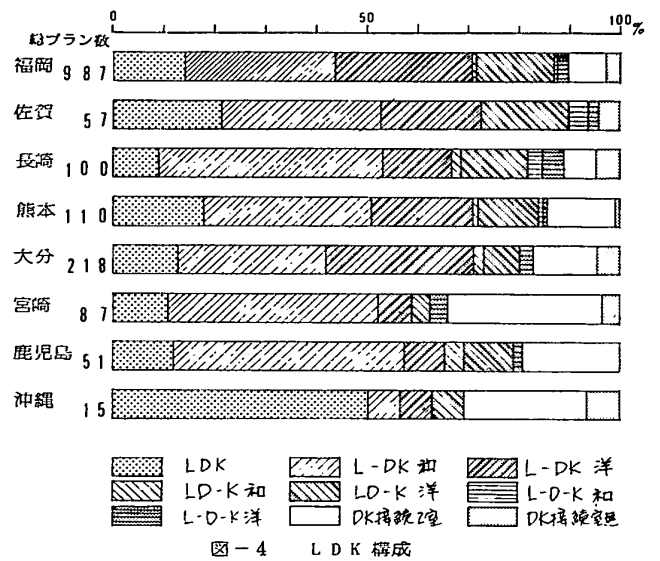
沖縄を除くと、各県共10%前後が応接間を設けている。特記すべき点は、接客空間として応接間だけを設けている例が少なく、座敷、それも続き間座敷と共に設けている例の多いことである。又、沖縄県の全例をはじめとして、長崎・宮崎・熊本の各県とも平家に応接間を設けている例が多い。

図アプラン類型分布状況 —九州— (図7参照)

まず、九州全県として共通している特徴は、類型の異別割合の中で、〈II-2〉型状、かなりの割合を占めているということである。実際の間取りをみると、室数別には、1階2室、2階3室の総室数5室型が、ほとんどを占め、DK接続室が、和室の場合、3室になると、応接間が、とられてくる傾向にある。

福岡、佐賀では、〈I-1〉型は、20%強であり、その他の県では、鹿児島を除いて10%前後で割合としては、共通している。DK接続室の和室、洋室の割合では、各県とも洋室がかなりの部分を占めており、和室の場合は、あまりない。したがって1階に和室が2室だけある場合は、続き間にする傾向があるといえる。実際のプランをみると、規模的にかなり広い範囲に分布し、1階3室型では、DK接続室に接続して、もう一室とられる傾向にある。

次に、特徴的な分布をしている県としては、まず、大分県があげられる。大分県は、1階3室型の続き間座敷が、県全体の45.8%を占めている。この中でも、〈II-1〉型は、大分県全体の33.4%を占め、この割合は、九州の中で最も高い。実際のプランをみると、



近床面積は、DK接続室が、和室の場合、80~100㎡の間に分布し、平屋の場合も数例みられる。洋室の場合は、90~100㎡に集中している。このタイプの室数構成は、1階3室、2階2室で総室数が、5室のものが、ほとんどを占める。

熊本、大分では、他県に比べて、〈Ⅱ-ロ〉型の分布の割合が大きい。それぞれ11.7%、14.4%を占める。実際のプランをみると、規模的には、1階1階3室、2階2室の総室数と室型がほとんどを占める。

長崎、宮崎、鹿児島は、〈Ⅱ-ホ〉型が、全体の割合の10%強を占め、特に、鹿児島では、21%を占める。この場合、実際にプランをみると、座敷に連続する部屋は、洋室になる場合があり、また1階室数では、応接間がとられる傾向にある。この他の県では、このタイプは、ほとんどみられない。

また、宮崎、鹿児島では、DK接続室の和室、洋室の傾向として、他の県はすべて、洋室の方で上まっているにもかかわらず、和室が多い。この地域の和室に付する嗜好の強さを示しているといえるだろう。

沖縄の存在は、プラン数も少ないということと相まって、特異な分布になっている。まず、その第1点と

して、〈Ⅱ-ニ〉型でDK接続室が洋室の場合がほとんどを占めるということである。具体的に直取りを見ると、座敷へは、このリビングルームと考えられる洋室も通り抜けなければならないプランがほとんどを占める。次に、圧倒的に平屋が多いということである。また、ほとんどの住家が、煉瓦工二階建てであるということである。このように沖縄は、全く異なる分布をしている。

以上のように九州において建て売り住家のプランを概観すると、総室数や座敷が多いことは一目瞭然である。したがって、地方には、柱之間座敷が多いと安直に総室数や座敷を配置してよいものがあるが、

本報では、住家の平面構成が、接客空間と、家族内住生活空間から構成されるものであるという視点に基づいて平面類型を行なった。その結果、同じ総室数や座敷がとられていても、その構成が違う間取りが、地方によって異なった分布をしているという事実が明らかになった。今後、同じ座敷を、この類型方法で用いた視点から、検討を重ねていきたい。

本報をまとめるにあたり、本学卒業生不廣香織、藤田由美両君の協力のあったことを記して、感謝の意を表したい。

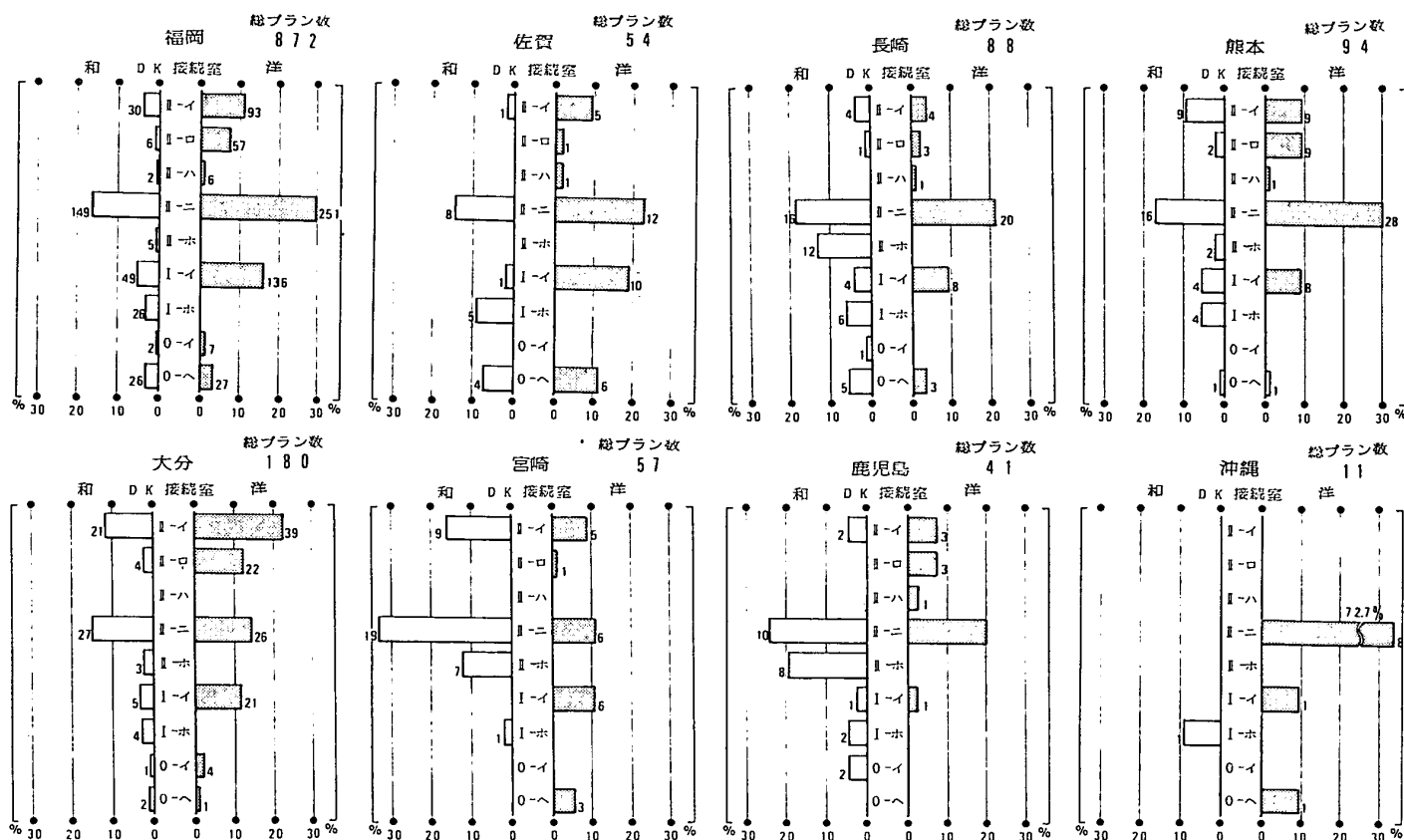


図-7 県別平面類型

※1 九大教授 工博 ※2 同講師 ※3 同助手 ※4 同大学院生